いきものふれあいの里　陶史の森だより

土岐市ネイチャーセンター
☎㊾5144

秋の野で日光を浴びて開く青紫色の花 －リンドウ－

写真は、秋の陶史の森で開花したリンドウです。リンドウ科リンドウ属の多年草で、日本では18種が確認されています。もともとは野生で群生することはなく単独で自生する特性があります。３月ごろから新芽を出し、茎葉を順調に伸ばして夏を越えた後、10～11月に開花します。冬に地上部を枯らし、休眠して越年します。

リンドウは世界各地で古くから薬草として利用されており、古代エジプト時代にも薬として用いられた記録が残っています。主に根が生薬に使われ、その味が、「竜の肝のように苦い」と評されたことから「竜胆（リュウタン）」と呼ばれていました。いつの間にか「リュウタン」がなまって「リンドウ」となったようです。

花の色は、青、水色、紫、白、ピンクなど。直径２cm程のベル型の花で１輪に５～６枚の花びらが付きます。リンドウの花は光に反応して開花し、曇りの日や夜には花弁を閉じてしまう性質があります。花言葉は「勝利」「正義感」「あなたの悲しみに寄り添う」などです。「勝利」や「正義感」は昔から薬草として利用され「病気に打ち勝つ」というイメージからつけられたようです。

３月ごろから陶史の森のあちこちで開花するリンドウは「ハルリンドウ」です。10～11月に開花する右の写真のリンドウの自生は少なく、陶史の森では希少な植物となっています。晩秋の最後を飾るリンドウは、日光を浴びて輝く宝石のようです。

リンドウの花

リンドウの蕾

森の日記　川を調整し、自然を育む堰堤

8月24日

今年は、８月のお盆あたりから大変な豪雨が続き、各地で川の決壊などの災害が生じました。陶史の森の雲五川も水量はずいぶん増大しましたが、幸いなことに決壊などの災害はありませんでした。陶史の森の中を流れる雲五川には、５つの堰堤（堤防）があります。この堰堤が、水流を調整し、災害を防いでいます。また、堰堤は池も作り、生き物が生きていくためのとても良い環境を作り出しています。堰堤によってできた「林泉の池」とその周りの湿地は、野鳥や魚、トンボなどの動物や、サギ草やモウセンゴケ、シラタマホシクサなどの希少な植物を育む重要な役割も果たしています。

▲陶史の森にある堰堤の一つ

教室のご案内

10月

●**バードウオッチング（要申込　定員10人）**
10月24日（日）　午前９時～11時　雨天中止
秋の野鳥を観察します。

11月

●**葉っぱのしおり作り（要申込　定員10人）**
11月７日（日）　午前９時～11時
色づいた葉っぱを採集し、しおりにします。

●**バードウオッチング（要申込　定員10人）**
11月28日（日）　午前９時～11時　雨天中止
晩秋の野鳥を観察します。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります